

FUKU-FUKU

Vol.77

「酒井敦美 光の切り絵展」 ～いつもはじまり～



昨年4月に予定していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となつた「酒井敦美光の切り絵展」。一年越しとなる企画展を、感染症対策を徹底した上で開催いたします。

照らす光でその姿を現す「光の切り絵」。その生みの親である酒井敦美さんの作品は、初めて見る人をあつと驚かせるインパクトに富んだ切り絵でありながら、見た人の心をほっこりと温めてくれる、そんな力をもつっています。

本展では「はじまり」をテーマに、春らしく明るく優しさにあふれた作品群で皆さまをお迎えします。



《一画二驚》春のはね1



《一画二驚》春のはね2

一つの画面の絵が二つに変わるのは、酒井敦美さん独自の手法「一画二驚」シリーズから物語のある温かな繋がりを表現した、よりすぐりの作品を紹介します。また、幻灯空間では、今回も高知県をイメージして制作していただいたオリジナル作品を展示します。また、敦美ワールドの魅力をぜひ、お楽しみください。

酒井敦美 プロフィール



光の切り絵作家 愛知県出身、在住。
独学で絵を描き続け、切り絵の手法で舞台美術等を手掛ける。

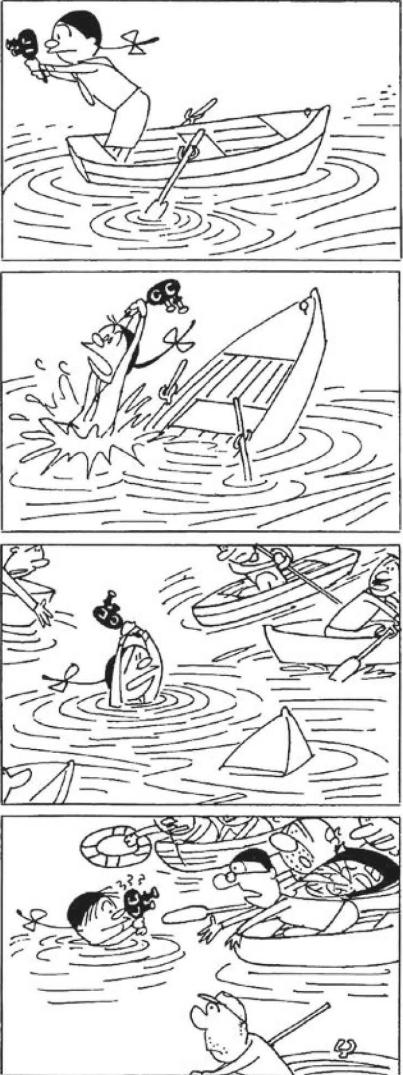
近年は「光」を透して表現するオリジナル切り絵作品を、《光の切り絵》と名付け、制作と発表を続けている。

光の切り絵には、一枚の切り絵が2場面に変化する《一画二驚》や、街路や自然の中に切り絵を投影する《野外幻灯》などがある。

始まりは高知県佐川町
旅好きな酒井さんが高知県佐川町にある、風流な酒蔵を訪れたときのこと。書家北古味可葉さんとの出会いがきっかけで、初めての野外幻灯が実現しました。その後、佐川町の酒蔵の道を舞台に10年間、町の一大イベントとして地域の人々に親しまれています。本展ではその世界を室内で表現します。

期 間 ●2021年4月17日(土)～7月4日(日)
場 所 ●横山隆一記念まんが館 企画展示室
時 間 ●9:00～18:00(企画展最終入場17:30)
休館日 ●毎週月曜日(ただし、5月3日は開館)
観覧料 ●一般 800円 / 大学生・専門学校生 600円
中・高校生 400円 / 小学生以下 300円
※65歳以上の方及び身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は割引料金(観覧料の半額)でご覧いただけます。
企画展の観覧者は、常設展示を割引料金(200円)で観覧できます(高校生以下無料)。
主 催 ●KUTVテレビ高知/公益財団法人高知市文化振興事業団
横山隆一記念まんが館

フクちゃん 横山 隆一
(1965年)



フクチヤン ハジマリノ時代



● 2021年1月21日(木)～2月21日(日)
場所 横山隆一記念まんが館企画展示室

企画展「フクチヤン ハジマリノ時代」の開催にあたり、1936（昭和11）年から1944（昭和19）年までの間に朝日新聞に連載された『フクちゃん』の掲載年月日調査を行いました。新聞での連載は全部で2500回を超えており、そのうち約三分の一の原画をまんが館で収蔵しています。本展は戦前・戦中の日常を読み解くというテーマで、約200点の資料とあわせて紹介しました。



1. 歴史・時事・風習

歴史的な出来事を中心に、時事、風習などを題材にした原画を通して、世の中の動向をみていきました。隆一は、日本中で日中戦争（支那事変）はすぐに終わるという期待があつた、と著書の中で当時の状況を述べていますが、戦争を身近に差し迫ったものと感じられていないかったです。しかし、次々に出る統制令から戦争を肌で感じるようになり、物資も配給制になつて、ヤミ商売も出てきまし

た。そのようにして人々の生活と戦争が重なり合う様子が原画から見て取れます。新聞紙面で言えば、徐々に戦況を扱う比率も多くなり、物資不足による紙面縮小、「フクちゃん」の原画の大きさも小さくなっています。



当時使われていた道具類

1941（昭和16）年12月、隆一は徴用され陸軍報道班員としてジャバ（現・インドネシアのジャワ島）へ派遣されました。約8か月に及ぶ徴用で、隆一は現地の状況を伝える『フクちゃん』を描いたり、慰問団としてジャワ全土を回ったりと陸軍の宣伝活動に従事しました。展示では検閲印の押された原画や、帰り飛行機搭乗券といった現地で発行された書類なども紹介しました。

4. 銃後

隆一はプロのまんが家として軍の宣伝活動に協力しました。国民的人気キャラクターであるフクちゃんは、特に子どもへのなじみがよく、子どもにも出来る戦時協力などの広報活動に活躍しました。当時子どもたちに人気だった紙芝居にもフクちゃんは登場し、貯金の推奨、ヨイコドモという子どもの道徳、スパイへの警戒という民間で実行が求められた政策内容で描かれています。会場では『フクちゃんのヨイコドモ』の紙芝居朗読映像

戦中の出来事として、【落下傘ニュース】に『フクちゃん』が無断掲載されました。落下傘ニュースとは、アメリカ軍が日本の戦意喪失・降伏を呼びかけるために作成したビラで、戦地や国内の主要都市に飛行機でばらまかれたものです。戦後すぐに隆一は、GHQに原稿料の支払い請求に行きましたが、断られてしまいました。その後50年たつた1995年（平成7年）に隆一は、「文化功労者を祝う会」の席上にて、アメリカ大使館から【落下傘ニュース】の原稿料を受け取りました。第5章では、この原稿料をめぐる戦中から戦後にかけてのエピソードを紹介しました。



落下傘ニュース



3. ジャバ

在では見かけなくなつたり、使うことがなくなつたりした道具類もたくさん登場します。会場に登場する実物資料からも、当時の雰囲気を感じもらえたのではないで



5. その後

戦中の出来事として、【落下傘ニュース】に『フクちゃん』が無断掲載されました。落下傘ニュースとは、アメリカ軍が日本の戦意喪失・降伏を呼びかけるために作成したビラで、戦地や国内の主要都市に飛行機でばらまかれたものです。戦後すぐに隆一は、GHQに原稿料の支払い請求に行きましたが、断られてしまいました。その後50年たつた1995年（平成7年）に隆一は、「文化功労者を祝う会」の席上にて、アメリカ大使館から【落下傘ニュース】の原稿料を受け取りました。第5章では、この原稿料をめぐる戦中から戦後にかけてのエピソードを紹介しました。

戦前・戦中の新聞連載まんがである『フクちゃん』は、当時の庶民生活・世相（特に子どもの目線を借りた）を如実に表しているものです。隆一がフクちゃんを通して伝えたかったのは、まさに「日常」だったのかもしれません。企画展を通して、ご来場いただいた皆さまの中に新たな発見があれば幸いです。



を流し、当時の子どもたちと同じ体験をしていただきました。

まんが・漫画・マンガ展！ 2021 開催中！

期間 ● 2021年3月6日(土)～3月28日(日)
場所 ● 横山隆一記念まんが館企画展示室

時間 ● 9:00～18:00

観覧料 ● 無料

主催 ● 公益財団法人高知市文化振興事業団 横山隆一記念まんが館

共催 ● 高知漫画集団 高知漫画グループくじらの会

一記念まんが館

高知漫画集団と高知漫画グループくじらの会による合同作品展「まんが・漫画・マンガ展！2021」を、横山隆一記念まんが館企画展示室にて開催中です。

皆さんの立体作品を展示しています。しなとした空気感漂う洞窟にあって精彩を放つ、多種多様な生物群は一見の価値あり！また、「冒険」を合同競作テーマとして描かれたまんが作品や、出品者それぞれ得意分野で表現された展示の数々は今世相を斬るもの、地元高知に親しむもの、くすっと笑えるものからウムムと唸るものまで盛りだくさんの内容で、高知のまんが文化を盛り上げる皆さんの力作約270点が勢揃いしています。

交流コーナーにはグループ外からご応募いただいた作品を展示しております。粒揃いの作品もあわせてお楽しみください。

また、会期中の土・日曜日には、恒例のチャリティー似顔絵コナーを開設しています。コロナ対策をしつかり施しているので、マスクを外してお楽しみいただけます！高知のまんがを楽しんだ記念に是非ご参加ください。

多くの皆様のご来場をお待ちしております！



たくさんのまんが作品をお楽しみください



ナゾの洞窟には不可思議なイキモノたちが！

第16回まんがの日記念 4コマまんが大賞 作品展

期間 ● 2020年10月28日(水)～12月27日(日)
場所 ● 横山隆一記念まんが館企画展示室

本年度の4コマまんが大賞作品展では、ご応募いただいた作品のうち、入賞作品を含む一次通過作品と高知県内からの応募作品に、前回の入賞作品を加えて、計284点の作品を展示了しました。

そのほか、今年は新型コロナウイルスに関連する事柄に着想を得た作品が突出して多かったため、これらの中から特設コーナー「2020トピックス」を設け、一次審査を通過しなかつた作品も展示了しました。(前後期入れ替えて全83点)

来場者の皆様にお気に入りの作品を選んで投票してもらい、得票数が多かった作品に贈られる「ギャラリー賞」には、一般・ジュニアの部合わせて10作品が選ばれました。

入賞作品、作者は左のとおりです。

●一般部門

「見えるこ、見えないこ」「ゴキ・・・」「2020年空の旅」「監視カメラ」「(タイトル無し)」

P.N.J
P.N.つう
浅沼ひろゆき

小林尚武
村尾達弘

蟹井綾斗

中谷桂吉

古田早紀

大河原みちる

「猫に小判」「まちがえちゃった」「白雪ひめ」「せいぐらべ」「感じ方はちがう」

「私とまんが」



平和資料館・草の家学芸員

藤原 義一



小学生に入る前から毎日のように伊野町の貸し本屋に行ってまんがを借りました。特に手塚治虫さん、しばてつやさんのまんが好きでした。

おとなになってから、東京の日本共産党の赤旗まつりのまんが教室を担当しました。

しんぶん赤旗日曜版にまんがを連載したことがあって、選挙では日本共産党を応援してくれていた手塚治虫さんを招きました。

ギリギリの間にやつてくる手塚さん。2人で、まつりの入口から会場まで走りました。

パツと舞台に上がってマジックインキですらすらと鉄腕アトムなどのキャラクターを描く手塚さん。

まんが少年だった息子も、それに見入っていました。

手塚さんが病氣で出られなくなつたときは、ピンチヒッターとして美内すずえさんに出ていただきました。

手塚さんは、1989年2月9日に亡くなりました。

最後の言葉は「頼む仕事をさせてくれ」だつたといいます。

手塚さんとのことは拙著『手塚治虫の戦争反対の情熱』(飛鳥出版室)に書きました。

お読みいただければ幸いです。

